

第4回定例会 昭和五十八年度各会計 歳入歳出決算を認定

墨田区議会は、昭和五十九年第四回定例会を、十一月二十日から三十日までの十一日間にわたって開きました。

決算報告三件を認定

本会議初日の二十日は、始めに十月一日付で就任した教育委員からあいさつがありました。引き続き一般質問に入り、自由民主党、公明党、新自由・民社クラブ、日本共産党の四会派から一名ずつ、翌二十一日には、区民クラブ、日本共産党か

らそれぞれ一名の議員が質問に係る個人情報に関する条例等十四件、補正予算二件を議題とし、提案理由の説明を聴取し、所管の各常任委員会に審査を付託しました。又、請願・陳情八件も各常任委員会に審査を付託しました。なお、前定例会から継続審査となっていた陳情一件の取り下げが報告されました。二十二日からは、各常任委員会で付託議案等を審査するため本会議を休会にしました。

議員提出議案三件を可決

定例会最終日、三十日の本会議では、各委員会で審査した議案を議題とし、五件は全会一致で、十一件は賛成多数で、いずれも委員会審査報告どおり可決しました。又、各常任委員会で



旧安田庭園の雪景色(59・1・20)

議決した意見書(要旨)

地方自治体における財政権等の確立に関する意見書

政府は、六十年代予算編成で地方自治体への国庫補助金を一律に引き下げ、財政負担を地方に求めようとしているが、地方財政は厳しく、これが実施された場合には、財政の硬直化、住民福祉施策の停滞、国と地方との信頼関係低下等が憂慮される。

よって政府は、国と地方の役割分担明確化、補助金の整理統合など地方財政の確立及び自主性の高揚に配慮し、国庫補助金の一律引き下げを再検討するよう要望する。

内閣総理大臣、大蔵大臣あて



墨田区議会議長

瀧澤 良 仁

区民の皆さん、明けましておめでとうございます。日頃から、議会活動に対し深くご理解、ご支援を賜り心より厚くお礼申し上げます。さて、今日、明るいきざしが見え始めたとはいえ、区政をとりまく財政事情は、依然として厳しいものがあります。しかしながら、区民の皆様

請願・陳情の 処理状況

◎ 一部採択・一部不採択としたもの

◇ 制度融資の改善等に関する請願

一 採択とした分

○ 中小企業センターの運営について

一 不採択とした分

○ 融資制度の改善について

○ 下請取引実態調査の実施、中小企業諸法遵守の徹底について

◎ 不採択としたもの

◇ 不正税制の是正等に関する請願

◇ 住民の健康と医療に関する陳情

◇ 大横川環境整備基本計画の変更に関する陳情

◇ 原爆被爆者に対する見舞金の支給等に関する陳情

謹 賀

新 年



議 長

副 議 長

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|---------|---------|---------|-------|---------|---------|---------|-----------|---------|---------|---------|---------|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|----------|---------|---------|---------|-----------|-------------|-----------|--------|--------|
| 青 山 政 雄 | 甚 野 緑 | 並 木 雄 | 山 崎 吾 | 柴 田 治 | 沖 山 満 | 樋 口 吉 | 湯 本 二 | 原 正 義 | 早 川 幸 一 | 矢 口 甲 子 | 藪 田 隆 明 | 槐 田 勲 | 柴 田 昌 男 | 瀧 澤 良 仁 | 田 中 左 内 | 小 早 川 幸 子 | 村 瀬 政 幸 | 大 和 久 雄 | 原 田 裕 夫 | 石 橋 正 夫 | 武 内 啓 次 郎 | 坂 岸 榮 治 | 佐 藤 四 郎 | 加 藤 耕 造 | 西 原 文 隆 | 松 野 弘 子 | 土 橋 正 造 | 中 村 光 雄 | 乙 津 一 行 | 西 恭 三 郎 | 牛 山 れい 子 | 渡 辺 幸 良 | 阿 部 進 男 | 中 沢 修 利 | 坂 下 利 之 二 | 熊 谷 武 美 穂 子 | 小 池 美 穂 子 | 堺 池 清 | 木 内 清 |
| (公) | (公) | (自) | (自) | (自) | (自) | (自) | (自) | (自) | (自) | (公) | (公) | (公) | (自) | (自) | (自) | (自) | (区) | (区) | (新自・民) | (共) | (共) | (公) | (自) | (自) | (自) | (自) | (新自・民) | (共) | (共) | (共) | (共) | (自) | (自) | (自) | (自) | (自) | (自) | (新自・民) | (新自・民) |

一般質問 財源の効率的執行により 区民直結の施策実施に努める

区長 答 井

六十年年度予算編成を前に財政運営は どのように

自由民主党

問 政府では、国家財政負担軽減のため、国庫補助金一律削減などを打出すなど地方財政に大きな影響を与えようとしており、東京都の六十年年度予算編成作業では、厳しい予算査定をする方針といわれ、都区財政調整の動向とともに憂慮される。これらの状況下で、区長は予算編成を前に、どのような財政運営をしていくつもりか伺いたい。

京成電鉄押上線の立体化を促進せよ

公明党

問 京成押上線の立体化は、国都を含めた事業負担の問題などによって実施のめどがたらず現在に至っているが、近く、建設省において荒川鉄橋改修等大きな工事が行われると聞いている。今こそ立体化促進のチャンスである。区のまちづくりのためにも実情を関係機関に強く訴え促進を図るべきであると思うが、区長の考えを伺いたい。

隅田公園の「浮浪者」対策を

問 現在、銅像公園を中心とした隅田川沿いの各所にたむろする「浮浪者」があつたとたず近隣に様々な問題を提起している。区が文化観光事業の進展を図るうえで見過ごせない問題だ。抜本的打開策を研究し、公園にふさわしい環境とすべきと思

問 京島地区では、都営モデル住宅用地の測量等、まちづくりが本格化しているが、区は地域の実態に、より適応した住宅併設作業所の設計変更、家賃の減額措置拡充、融資条件の緩和等を、都などに要請するべきだ。

総合庁舎を含むタウンホール構想は 新自由・民社クラブ

新自由・民社クラブ

問 二十一世紀を目指す、墨田区発展の拠点とも言える総合庁舎を含むタウンホール構想の規模や内容について、どのように考えているのか。又、現庁舎については、今後どのような運用がなされるのか伺いたい。

日本共産党

問 本区の産業振興は、区政の重点施策であり、その育成強化に対する努力は高く評価する。この施策を更に補完し、制度融資を改善強化する意味からも信用保証業務を含めた中小企業振興公社(仮称)の設立等は考えられないか。

住民と一体の京島まちづくりを

日本共産党

問 京島地区では、都営モデル住宅用地の測量等、まちづくりが本格化しているが、区は地域の実態に、より適応した住宅併設作業所の設計変更、家賃の減額措置拡充、融資条件の緩和等を、都などに要請するべきだ。

二十三区での情報公開に関する検討 状況は 区民クラブ

区民クラブ

問 高度情報化社会が到来しているといわれている今日、行政情報を区民の要求に応じて公開していく必要性がますます高まっている。二十三区で行っている情報公開に関する話し合いの状況と、情報公開を行う際のプライバシー保護をどうされるかについて伺う。

地下鉄八号線実現を 大蔵大臣へ要望書提出

営団地下鉄八号線延伸の早期実現をはかるため、これに関係する区で作っている「地下鉄建設促進五区協議会」は、昨年十一月九日に竹下大蔵大臣を訪ね、財政措置について要望を行いました。

決算特別委員会開会 五十八年度決算を審査

五十八年度決算を審査

去る五十九年十月二十九日から十一月二日の五日間にわたり決算特別委員会を開きました。この特別委員会では、昭和五十八年度墨田区一般会計、同国民健康保険特別会計、同老人保健医療特別会計の各歳入歳出決算の審査を行いました。

ためがま

明けて、おめでとございます。今年も、区議会の活動をお知らせするため、「区議会だより」の一層の充実を努力してまいります。

区議会事務局 調査係 ☎03-351-3151 内線47

隅田川のはなとりの

曳舟川通り

押上二丁目「飛木稲荷」といふ名(と)という神社があります。この「飛木」の名は、昔、どこからか飛んできたイチヨウの苗木が根付いたことに由来するといわれています。

このイチヨウの木は、現在、樹齢四百年とも五百年とも言われ、幹のまわりは約五メートルもあり、区の保護樹木にも指定

府は六十年ほどで上水の廃止を決め、それからは、船の運河として利用されました。

荒川が開かれるまで、川の長さ、業平橋際から埼玉県越谷市までの約三十六キロメートルありました。川沿いの道が途中松戸で水戸街道に連絡していたため、「水戸の裏街道」とも呼ばれ、墨東の人たちにとって水戸街道に入る近道として重要な交通路になっていました。

明治の中頃には、川沿いもだし、時に塩気が出たり井戸が堀られたりしたため、幕



小梅曳舟通雪景 小林清親画

健全な学校環境づくりを

問 小中学校の学校暴力は、教師の生徒に対する体罰も一因であり、教育委員会は体罰禁止に際して、本区教員の意思統一を図っているか。又、四十人学級を完全実施した場合、学校施設及び教員の対応はどうなるのか。

区議会事務局 調査係 ☎03-351-3151 内線47